

## —東京2020オリンピック・パラリンピック『復興「ありがとう」ホストタウン』など— インドネシア共和国で本市の思いを伝えました

- 10月13日から15日にかけて、インドネシア政府 青年スポーツ省、オリンピック委員会、パラリンピック委員会の方々へ、ありがとうホストタウンに関する説明と、復興支援への感謝を伝えるとともに、東京大会には市民とインドネシア人技能実習生で応援ツアーを計画していること、大会前後に大会関係者と市民の交流の機会を持つことなどの構想を披露しました。
- 青年スポーツ省において、9月28日に大きな地震と津波により被災したスラウェシ島のみなさんを励ますため、気仙沼図書館で実施した、寄せ書きとメッセージカードを手渡し、被災した方々へ届けていただけようお願いします。
- Japan Travel Fair2018のブースにて本市のPR活動をしてきました。

### 【訪問先と面談者など】

10月13日(土)

- ①インドネシアパラリンピック委員会 プリバディ事務局長、スカンチ事務局職員
- ②アジアパラ大会  
パラバドミントン決勝、車椅子バスケットボール決勝、閉会式を視察

10月14日(日)

Japan Travel Fair2018(ジャカルタ市内ショッピングモール:コタカサブランカ) JNT0(日本政府観光局)ブースにおいて観光パンフレットを配架するとともに、JR東日本出展ブースの一角を借用し、来場者へ気仙沼市をPRしました。

10月15日(月)

- ①インドネシア政府 青年スポーツ省 ガトット事務次官  
寄せ書き・メッセージについては、必ず地方政府に届け、その様子は大使館を通じ改めて報告していただくこととなった。また、気仙沼の子供たちの大切な思いをSNSを通じ発信するとの回答を得た。  
※青年スポーツ省訪問について、SNS、ネット等で情報発信されています。
- ②在インドネシア日本国大使館 石井正文特命全権大使
- ③インドネシアオリンピック委員会 エリック・トヒル会長、ヘレン・サリタ事務局長

青年スポーツ省、オリンピック委員会、パラリンピック委員会にては、『復興「ありがとう」ホストタウン』の趣旨を理解いただき、今後、連絡を継続し取組みにつなげていくことを確認出来ました。

- 同行者/内閣官房オリンピック・パラリンピック推進本部事務局:金子参事官補佐,佐溝主査  
在インドネシア日本国大使館広報文化部:竹山広報文化部長,村山二等書記官

①パラリンピック委員会 事務局長と



②アジアパラ大会 パラバドミントン会場



③Japan Travel Fair2018 JR 東日本ブース前にて



④Japan Travel Fair2018 会場



⑤青年スポーツ省 事務次官と



⑥寄せ書きとメッセージカードを手渡しました



⑦在インドネシア日本国大使館 石井大使と



⑧インドネシアオリンピック委員会 会長と

